

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520964

研究課題名(和文) 農山村における多様な居住実態を踏まえた地域資源のガバナンスの探求

研究課題名(英文) Exploring the governance measures of local resources under the multifarious lifestyles in rural areas

研究代表者

松尾 容孝 (Matsuo, Yasutaka)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：20199764

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：農林地の変化と農林業の現状に関して論文を刊行し、との発表を行った。育林生産収斂以前の林野利用(焼畑・製炭・木地加工・木材生産)の分布を論文で示した。このうち木地加工利用の特色を論文にまとめた。1830年以後現在までの奥多摩町域の変化動態を論文にまとめた。複線的な地域変化と現行の行政施策、なすべき処方箋の一般的な検討を論文にまとめた。過疎化・人口希薄化により生活サービスの維持が困難な現在に模索されているコミュニティバスの運行方式と運営方式に関して、論文をまとめた。新たな地域資源活用の例としてツーリズムと再生可能エネルギー利用に注目し、の発表と、の発表との刊行を行った。

研究成果の概要(英文)：Transition of agriculture is in Paper no.3 and the issues of forestry are presented in no.1 and 7. Distributions of shifting cultivation, charcoal making, bare wood processing and silviculture are mapped in Paper no.7. The mechanism of bare wood processing is in Paper no.4. Depopulation and fluctuations compel the change in settlements, land use and the governance system of local resources. Long-term transition of Okutama-machi area is shown in Paper no.2. Its more generalized analysis is examined in Paper no.6.

Depopulation usually makes daily services difficult. "Community Bus" service is examined in Paper no. 1. Apart from the traditional land use and economic activities, some new challenges are pursued by the stakeholders. Among them are the tourism and the renewable energy initiatives. On tourism no.8 was presented and on new energy no.4 and 5 were presented and later compiled to be Paper no.5. Systematization of the research is under way.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：地域振興 地域の再編 林野利用 ソーシャルキャピタル 持続可能性 土地管理 ツーリズム コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

(1) 農山村での家族居住を前提にした地域社会における地域資源管理は、今日必ずしも一般的でなくなりつつある。すなわち、通勤就業が困難で産業も不振な農山村では、地域変動のため多様な居住実態が出現し、地域資源の有効な活用方法が一義的に定まらず、個々の地域に適したガバナンスをステークホルダー間で確立する必要に迫られている。多様な居住実態として、多数の村民の転出による域内再編、一部村民による都市資産の取得や都市部との二地域居住、都市住民等による週末・季節居住や転入などがある。

(2) 歴史的に農山村の地域資源の存在形態には、さまざまなヴァリエーションがあり、その管理運営の方式や管理運営主体も、資源により、また地域により、一義的でない。歴史時代の仕組みをそのまま現在に適用することはできないが、地域資源が歴史的に多様な実態を内包してきたこと自体が、弾力的なガバナンス手法を案出しようる可能性を暗示する。歴史時代の多様な地域資源管理に関する従来の研究成果は決して豊富ではない。その実態解明はガバナンス手法の探求にとつて有用である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、農山村における多様な居住実態を踏まえた地域資源のガバナンスを探求することである。具体的には、地域資源の存在形態とガバナンスの歴史的・今日的事実、多様な居住実態の検討とその要因となるあるいは結果として生じる地域変動メカニズム、地域資源のガバナンスの展開動向に適応した保全・活用の対策・施策や処方箋の検討を、主たる研究目的とする。

3. 研究の方法

農林産物、景観・土地利用、有形・無形文化財、エネルギー、ツーリズムなどの「地域資源」を対象に、主に定量的データにより分布状況や地域特性を把握する。その管理運営の方式(ガバナンス手法)や管理運営主体の歴史的仕組みと現在の展開動向について、現地調査とともに、歴史時代(近世期)に関しては史料整理によって、近代以降に関しては各種統計データの分析や既存研究の渉猟・整理によって明らかにする。

4. 研究成果

(1) 時系列的に成果を記していく。まず、日本の近世期から近現代期における、育林生産特化以前の林野利用と林産物の分布・地域差に関して、主に統計を用いて地図化した。すなわち、『1960年林業センサス』『1950年農業センサス』『明治24年徴発物件一覧表』『日本林制史資料』などによって、当時のどの郡市町村において焼畑、製炭、木地加工、木材生産がそれぞれ盛んであったのか、つま

り地域資源になっていたのかを調べてエクセル形式で整理し、国土交通省の国土数値情報ダウンロードサービスを活用して、木地加工に関しては1920年の市町村境界を加工して作成した1891年当時の市郡界、それ以外は1950年の市町村界を用いて、林野利用(林野資源)の分布図を作成した。育林生産特化以前の林野利用には、たたら等の土鉱資源採取、牧野・林野放牧、山菜採取、狩猟などもあり、これらの林野利用分布図の作成は未了である。

(2) 人口減少・過疎化あるいは人口増加・都市化、および産業構造の変化や土地利用変化により、農山村の居住実態が変化して地域変動が生じている。それに対応して地域資源管理のあり方(ガバナンス)が変わり、地域資源管理自体が粗放化し行われなくなった場合もある。それをふまえ、日本の農山村における居住実態を模式的に整理し、過疎地等の生活様式の現状を調査し、施行されている地域支援政策とその妥当性を検討した研究成果を刊行した。

(3) 今日の重要な地域資源として、各地域に賦存する地球環境の観点にたった資源を挙げることができる。環境会計分野の成長により、地域資源の環境価値を計測・評価する方法も整備されつつある。生態系とともにエネルギー資源をこのような資源に位置づけることができる。2007年9月にシェトランド諸島で開催されたEnergy From The Edgeの学会に参加して、人口希薄な農山村や海岸地帯が再生可能エネルギーの生産地となり、高い地域資源の賦存地域であることを知った。本研究において、このことに取り組んだ。2012年10月に再生可能エネルギーに関する講演の機会があったので、その発表成果をその後研究成果として刊行した。

(4) 研究成果(1)の地図作成のあと、木地加工に関して、江戸時代の木地師活動の基本史料である氏子狩(駆)帳を翻刻した『永源寺町史 木地師編 上巻』『同 下巻』(2002年)および木地師関係の近世史料を活用して、歴史時代(江戸時代)における木地師の生態などを検討した。また、現鳥取県下の2地域を調査地に、かつての実態の復原・再構成を行った。移動職能集団木地師の一時的入村による奥山の立木利用・加工とその生活様式と地形・植生改変等の生態系への影響、木地師の定着化の過程、地元村・木地師・支配元締(蛭谷・君ヶ畑)・藩庁・塗師屋等の社会経済的および政治的相互関係、技術や文化および木地加工に占める木地師の位置づけなどの文化(史的)的特色などを検討した。製炭に関しても取り組んだが、和歌山県田辺市(旧秋津川町)のウバメガシ林でのコドラート調査、ウバメガシ林の伐採・維持の施業方式と製炭事業者の推移の調査にとどまっている。

(5) 育成林業(木材生産)に関して、産業としての1980年代以降の縮小状況と新たな森林産業の展開実態、各地の林業地域の現状と林業地域間の比較による育成生産の再編実態について、それぞれ2012年と2013年に口頭発表した。ただしこれらの活字化による成果刊行にはいまだ至っていない。

(6) 一方、日本農業に関して、農業基本法等の推移により戦後農政が3画期に区分できることを確認した。一方で、生産性を指標にして農業経営実態を検討すると、1960年頃までは耕地を開墾しかつ土地生産性の向上を追求することで、第二三次産業と比較して低い生産性をカバーしていた時期、その後1980年代までの、土地生産性でなく労働生産性の向上を追求した時期、1990年前後から現在までの、土地生産性・労働生産性を両方とも低下させる粗放的な農業に向かっている時期に、3区分できる。労働生産性の低下する分以上に経営規模を拡大して農業収入を確保して安定化をはかる農家がある一方で、経営規模を拡大せず、単に農業の粗放化や農業からの離脱が進行している地域も多い。特に農山村・山村においては、後継者がなく耕作放棄の大幅な拡大により経営耕地面積が急速に縮小しており、「中山間地域等直接支払制度」「農地・水・環境保全向上対策(農地・水保管理支払交付金)」などの補助金を支出して、農地の維持に努めている状況に陥っていることを示した。

(7) 現在の奥多摩町の一帯は、江戸後期の『新編武蔵風土記稿』の時代から現在まで、地域経済条件が異なる3区域からなっている。個々の藩政村は、数戸～十数戸からなる集落を数～十余あわせた単位で、1藩政村に2～数戸の神社や寺院があった。茅場や樹林地などの部落有林野も数村入会林野・1村有林野・藩政村の下位単位の集落有の部落有林野が共存し、ムラの実体が規模の異なる地域単位群によって分有されていた。明治期以後、市町村合併、部落有林野の統合、その後のダム水没や過疎化などの地域変動の結果、数度の地域再編が行政的になされてきた。このような150年以上にわたる地域変遷史とその間の村や自治会(隣保)の改組による行政的対応、とりわけ旧小河内村域中心部がダム水没した20世紀後半以降、東京大都市圏の影響を受けた急激な地域変動とそれへの行政的対応が取られた。比較的均等の地域群を再組織化しようとする対応策が模索されてきたこと、旧村から合併により誕生した町に旧部落有財産の実際の管理運営権限を移管する施策が採られてきた。

奥多摩町を題材にして、農山村の実態を深く検討することによって、ステークホルダー間での地域資源のガバナンスに関して多くの知見が得られた。ふさわしい方式の選択を

模索する取り組みが確認できた。

(8) 農山村では過疎化により公共交通や生活サービスの維持は困難になっている。しかしそれらの低下はさらに過疎化を進行させ、過疎地内の非居住地域を拡大させる。コミュニティバスやデマンド交通等の代替交通によりサービス低下を食い止めて居住条件を維持することが、農林地や集落等の地域資源を保全するために必要である。集落形態、生活サービス諸施設の立地配置条件、人口密度、道路網などの違いにより、適する代替交通のあり方は異なる。これらの違いがある3過疎地域を対象に、それぞれのニーズと地域条件に適したコミュニティバスの運行方式について検討し、各コミュニティバスの改善にむけての知見を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

松尾容孝、過疎地におけるニーズと地域特性に即した生活支援のバス交通、専修大学人文論集、査読無、94、2014、107-148
Yasutaka Matsuo, Current mountainous rural society under the influence of Tokyo metropolitan area, in Stig Westerdahl, Hans Westlund and Kiyoshi Kobayashi eds., *Social Capital and Development Trends in Rural Areas Volume 8*, CENSE, Jönköping International Business School, Sweden, 2013, 91-106. ISBN 978-91-86345-48-8 査読有

Yasutaka Matsuo, Examining current Japanese agricultural policies, 専修大学人文科学研究所月報、査読無、265(2013-7)、2013、33-49

松尾容孝、移動職能集団木地師の活動とそれを支えるメカニズム、人文科学年報(専修大学) 査読無、43、2013、1-58

松尾容孝、再生可能エネルギーの現状と展望 オプション価値の意義、専修大学人文論集、査読無、92、2013、17-53

Yasutaka Matsuo, Examining the supporting policies in the light of present lifestyles in depopulated mountain areas in Japan, in Walter Leimgruber, Walter Zsilincsar and Etienne Nel eds., *Mountain Regions in Transformation*, Shaker Verlag, Aachen, Germany, 2012, 183-207. ISBN 978-3-8440-0930-9 査読有

松尾容孝、日本における育成生産特化以前の林野利用図、人文科学年報(専修大学) 査読無、42、2012、1-30

〔学会発表〕(計9件)

Yasutaka Matsuo, Restructuring of Japanese forestry and the current condition for the sustainability of more advanced forestry regions, IGU Kyoto Regional Conference, 4-9 August, 2013, Kyoto, Japan

Yasutaka Matsuo, Development, areal differentiation and the prospects of the independent bus and share-ride taxi services in Japan, IGU Kyoto Regional Conference, 4-9 August, 2013, Kyoto, Japan

Yasutaka Matsuo, Comparative consideration between the pre-war indigenous pro-reproductive mechanisms and the current alternative mechanisms in rural communities; evolving importance of innovation through political entrepreneurship, The Tenth Workshop on Social Capital and Development Trends in the Japanese and Swedish Countryside, 16-18 May 2013, Amakusa, Japan

松尾容孝, 日本における再生可能エネルギー実用化の取り組みと課題、日本ナザレン教団第16回全国教職セミナー、2012年10月23-24日、晴海グランドホテル、東京

松尾容孝, 地球環境とヨーロッパにおける再生可能エネルギーの取り組み、日本ナザレン教団第16回全国教職セミナー、2012年10月23-24日、晴海グランドホテル、東京

Yasutaka Matsuo, Local development through tourism and new localism, The 32nd International Geographical Congress, 24-30 August 2012, Cologne, Germany

Yasutaka Matsuo, Historical characteristics of the forest system and the current issues of forest management and utilization in Japanese mountain villages, The Annual Meeting of IGU Commission on Marginalization, Globalization and Regional and Local Response, 19-23 August 2012, Dubrovnik, Croatia

Yasutaka Matsuo, Current mountainous rural society under the influence of Tokyo metropolitan area, The Ninth Workshop on Social Capital and Development Trends in the Swedish and Japanese Countryside, 23-26 May 2012, Simrishamn, Österlen, Sweden

松尾容孝, 奥多摩山村の景観・歳時と写真資料、第336回歴博講演会、2011年12月10日、国立歴史民俗博物館、千葉県佐倉市

〔産業財産権〕
出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松尾 容孝 (MATSUO, Yasutaka)
専修大学・文学部・教授
研究者番号：20199764

〔図書〕（計0件）